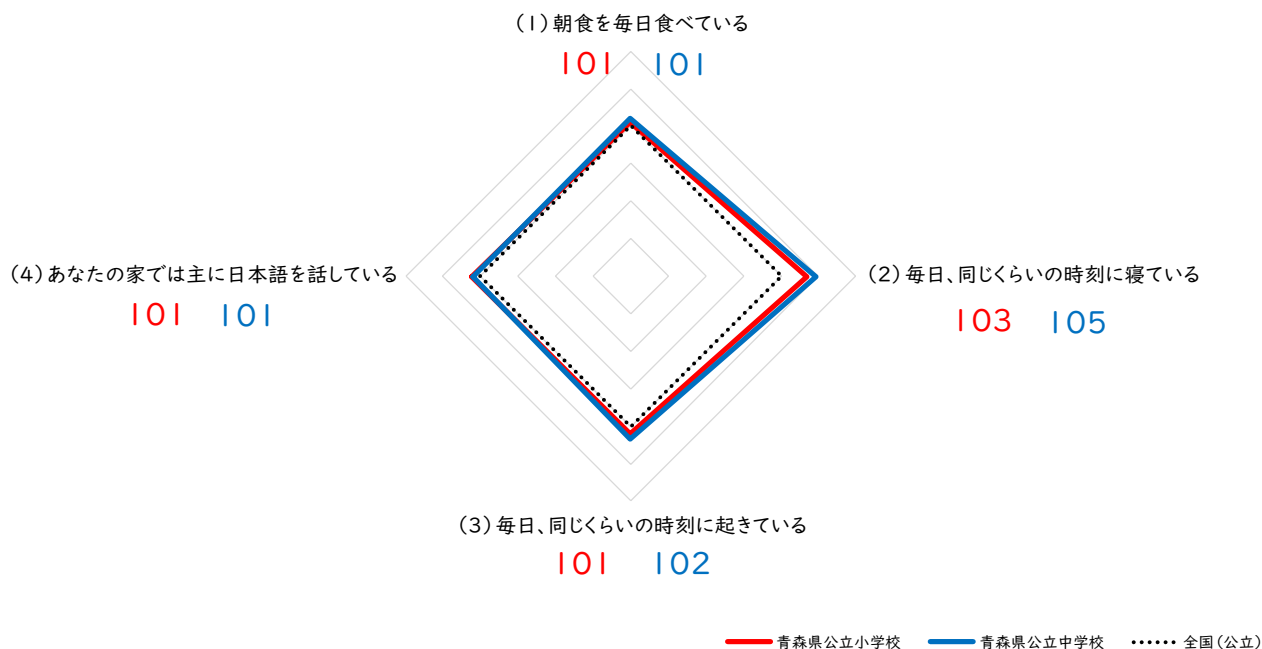


Ⅳ 質問調査

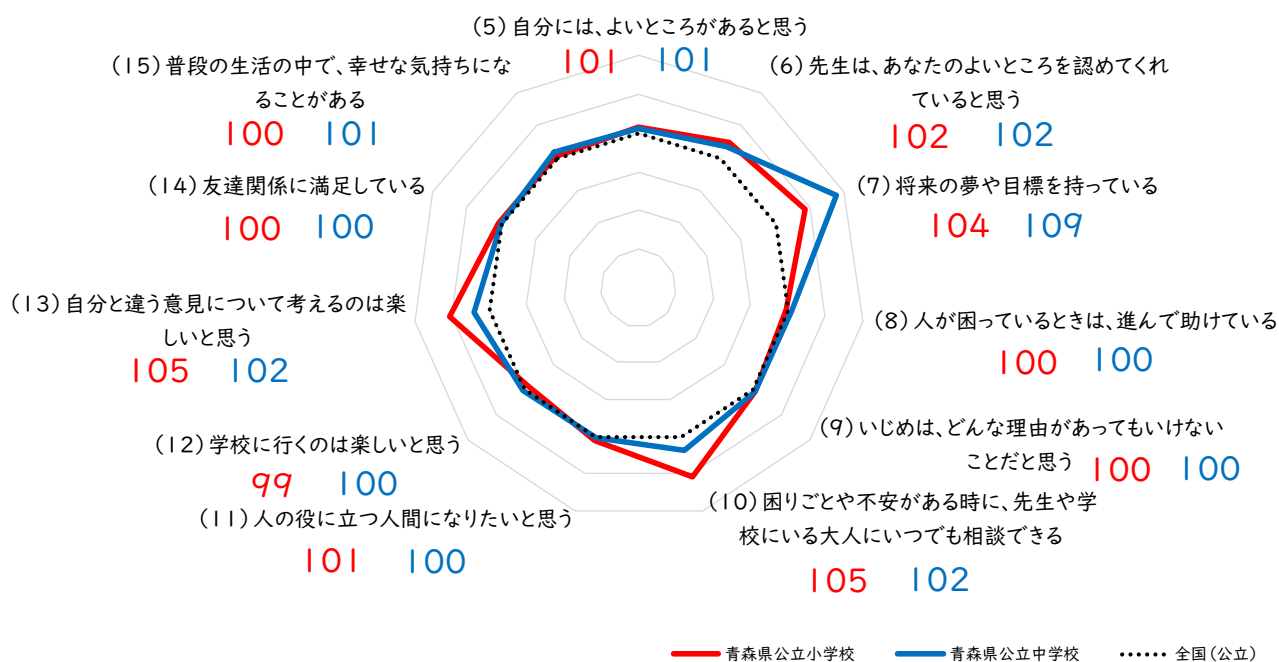
Ⅰ 児童生徒質問調査

① 基本的な生活習慣等



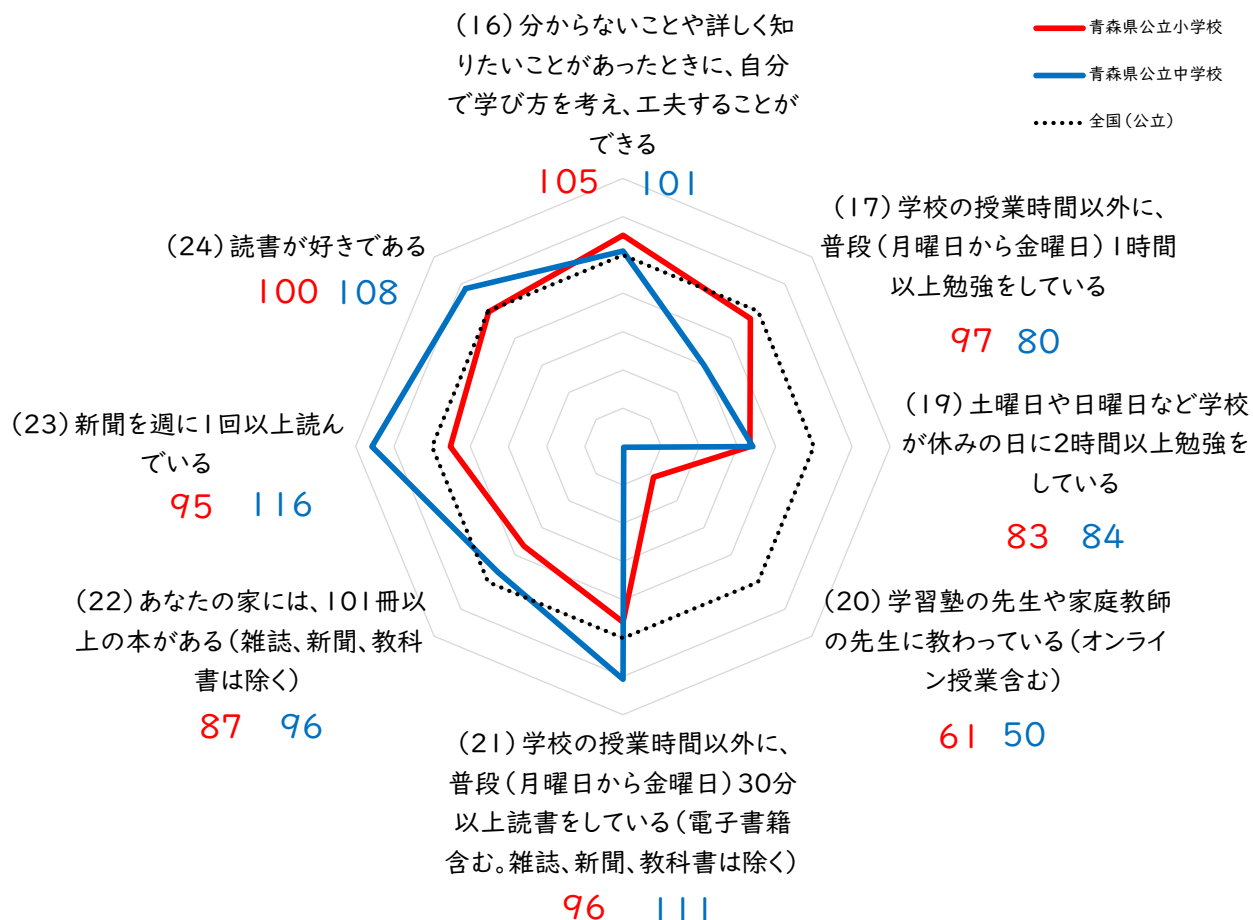
- ・全4項目の全ての項目について、肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・特に、小・中学生ともに、(2)「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」について、肯定的な回答が全国を上回っている。

②挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等



- ・全11項目中10項目について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
- ・(12)「学校に行くのが楽しい」について、肯定的な回答は小学校で全国を下回っている。
- ・小学生は、(10)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」、(13)「自分と違う意見について考えるのは楽しい」について、肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・中学生は、(7)「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

③学習習慣、学習環境等

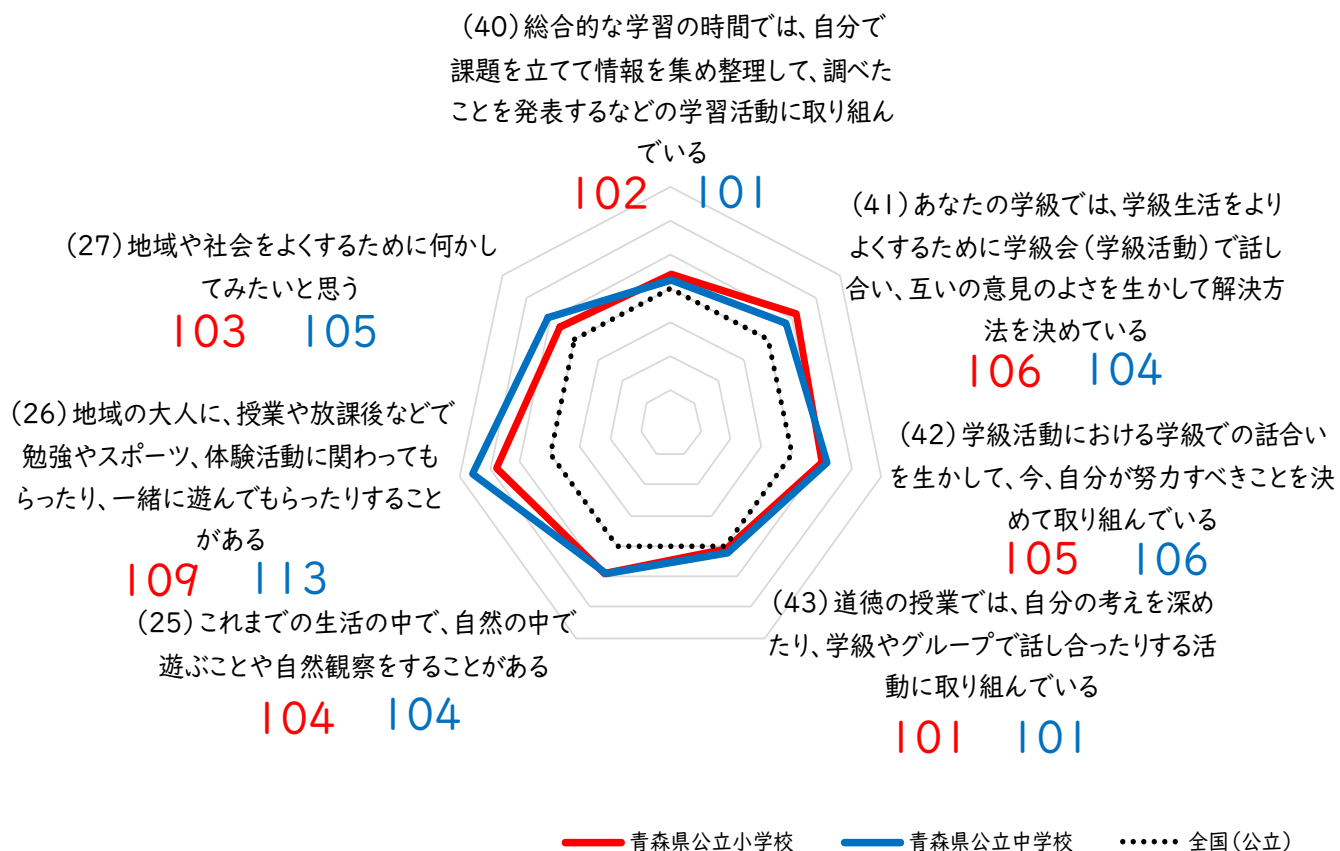


- ・小・中学校ともに、(16)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」について、肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・(20)「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている」、(17)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1時間以上勉強している」、(19)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に2時間以上勉強している」について、肯定的な回答が全国を下回っている。
- ・中学校では、(21)「学校の授業時間以外に読書をしている」、(23)「新聞を週に1回以上読んでいる」、(24)「読書が好きである」について、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

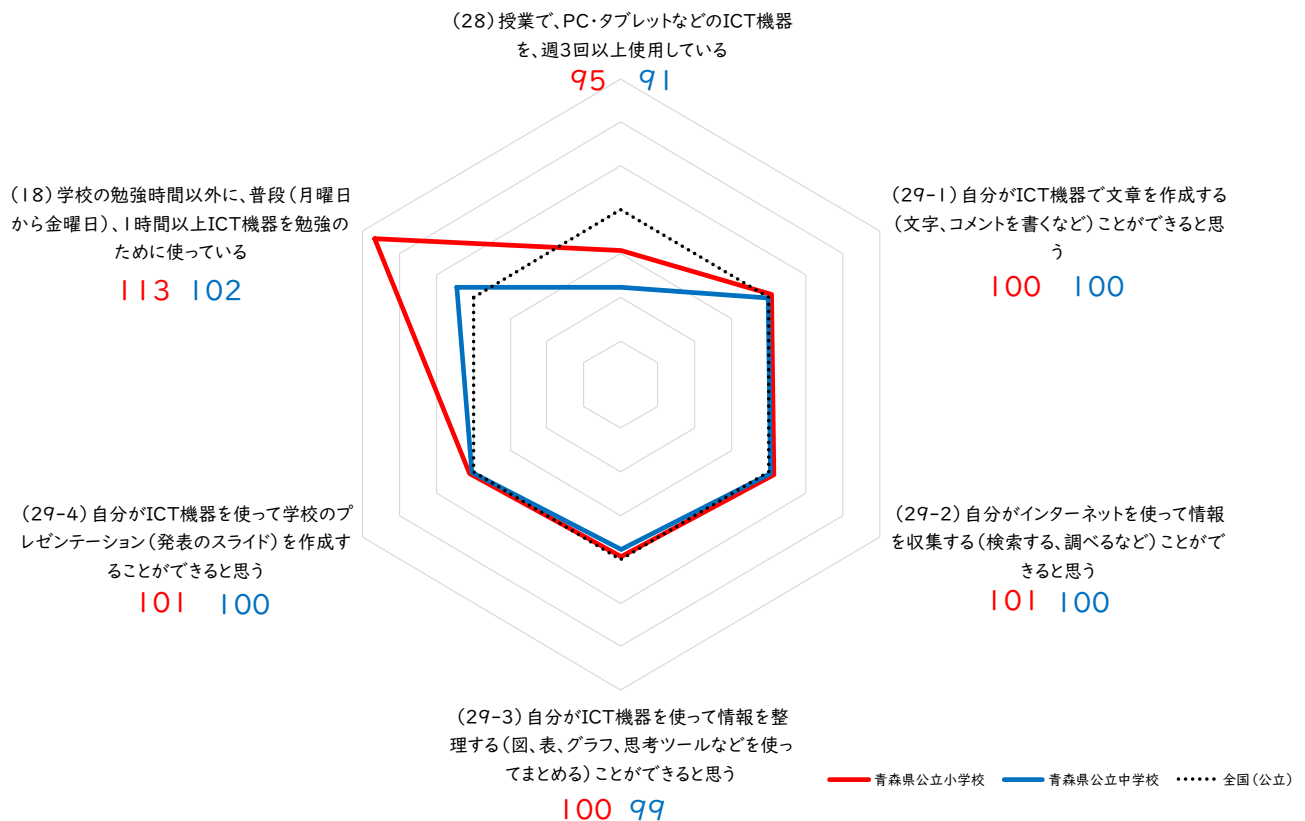
- ・(22) 家に101冊以上の本がある。
- ・(24) 読書が好きである。

④総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳、地域や社会に関わる活動の状況等



- ・全7項目の全てについて、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を上回っている。特に、小・中学生ともに、(26)「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりしている」について、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
- ・(41)「話し合いを通して、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている(いわゆる学級活動(1))」、(42)「学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組む(いわゆる学級活動(2)(3))」の2項目について、小・中学生ともに、肯定的な回答が全国を上回っている。また、小・中学生ともに、(25)「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある」、(27)「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」について、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

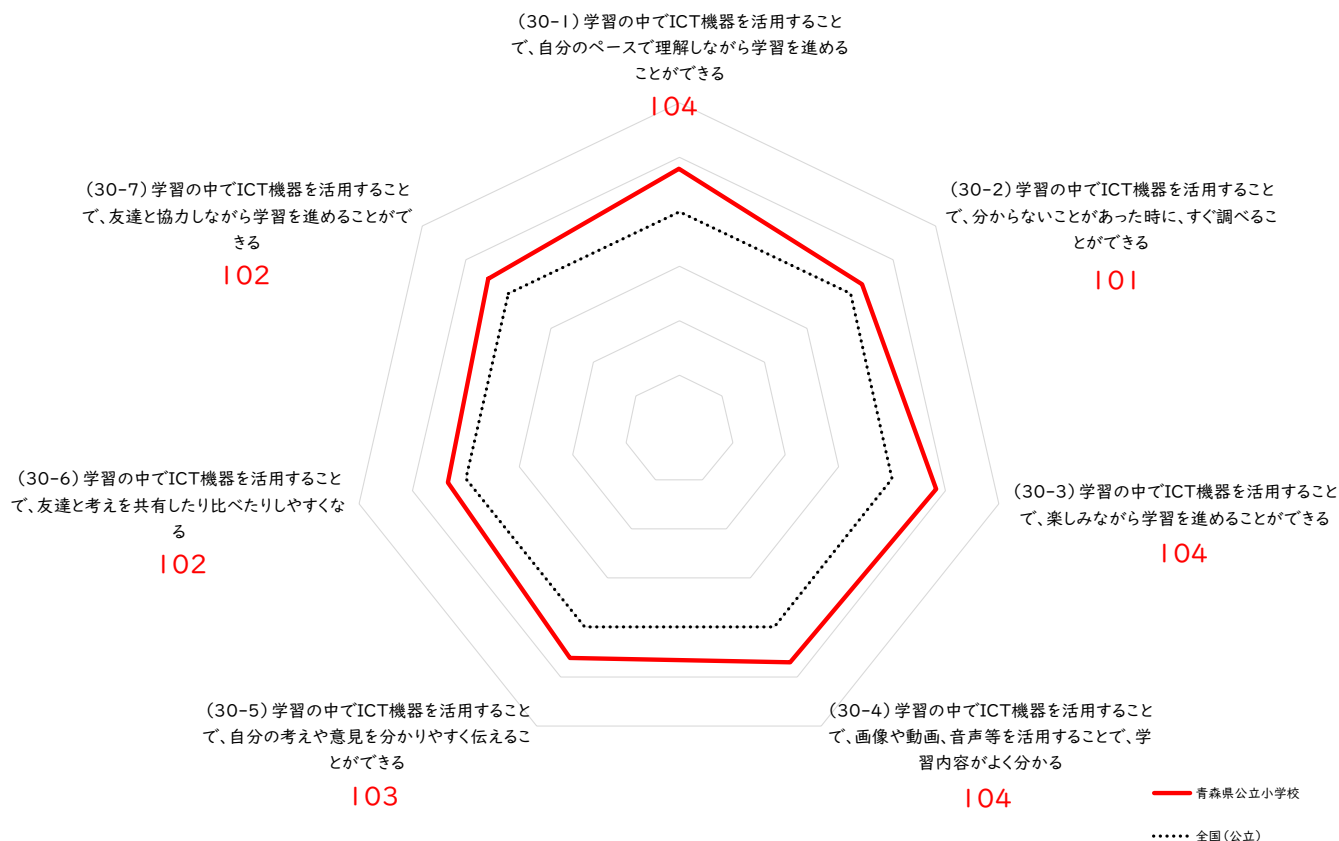
⑤ICT を活用した学習状況



- ・全6項目中4項目について、小・中学生ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。特に、(18)「学校の勉強時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上 ICT 機器を勉強のために使っている」について、小学生の肯定的な回答が全国を大きく上回っている。
- ・(28)「授業で PC・タブレットを週3回以上使っている」について、小・中学生ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(29-1) 自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思う。
- ・(29-3) 自分がPC・タブレットなどのICT機器で情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思う。
- ・(29-4) 自分がPC・タブレットなどのICT機器で学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思う。



- ・小学生は、全7項目中の全てについて、肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・(30-1)「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」、(30-3)「ICT 機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができる」、(30-4)「ICT 機器を活用することで、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」について、肯定的な回答が全国を上回っている。

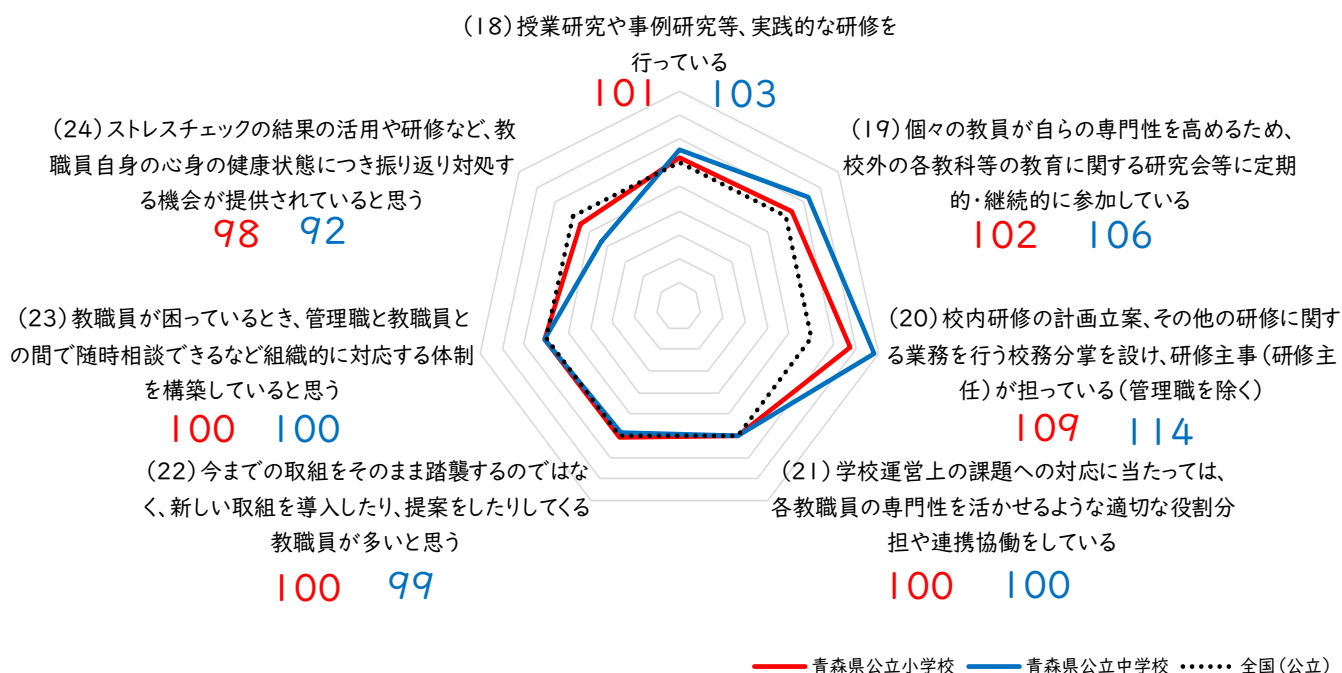
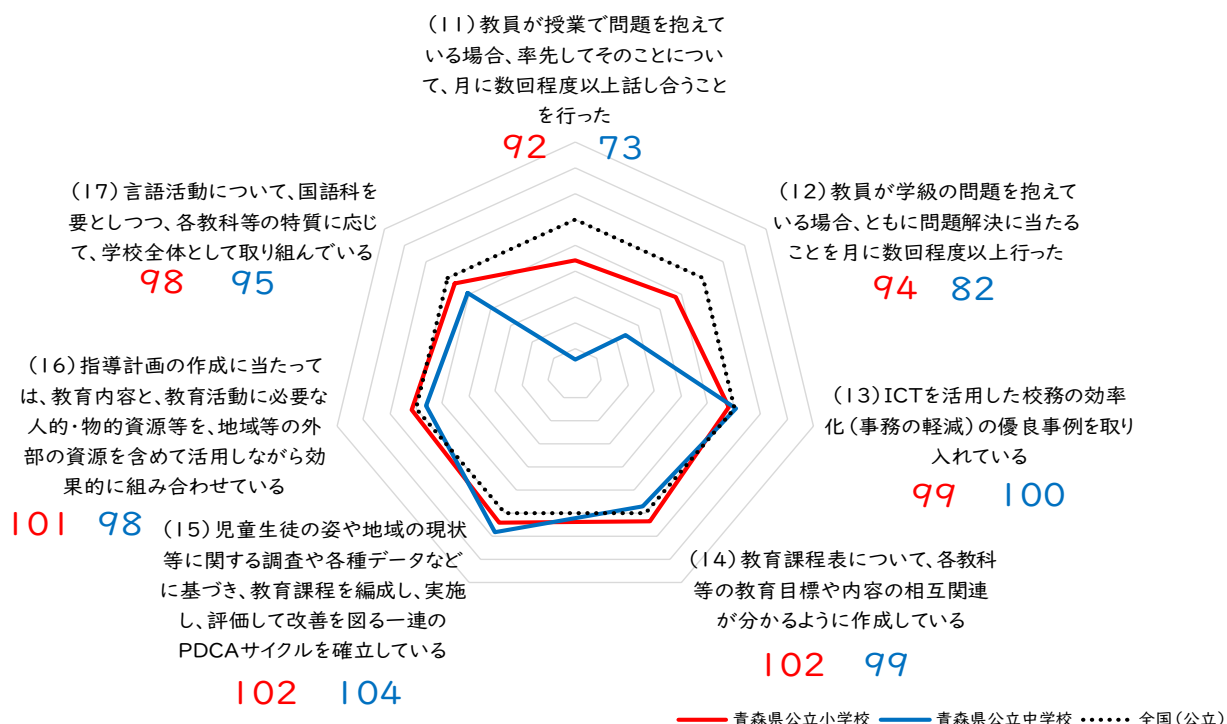
☆以下の回答をしている児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(30-2) ICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、自分はすぐに調べることができると思う。

※中学校については、抽出調査であり、全体の結果が示されていないため、記載していない。

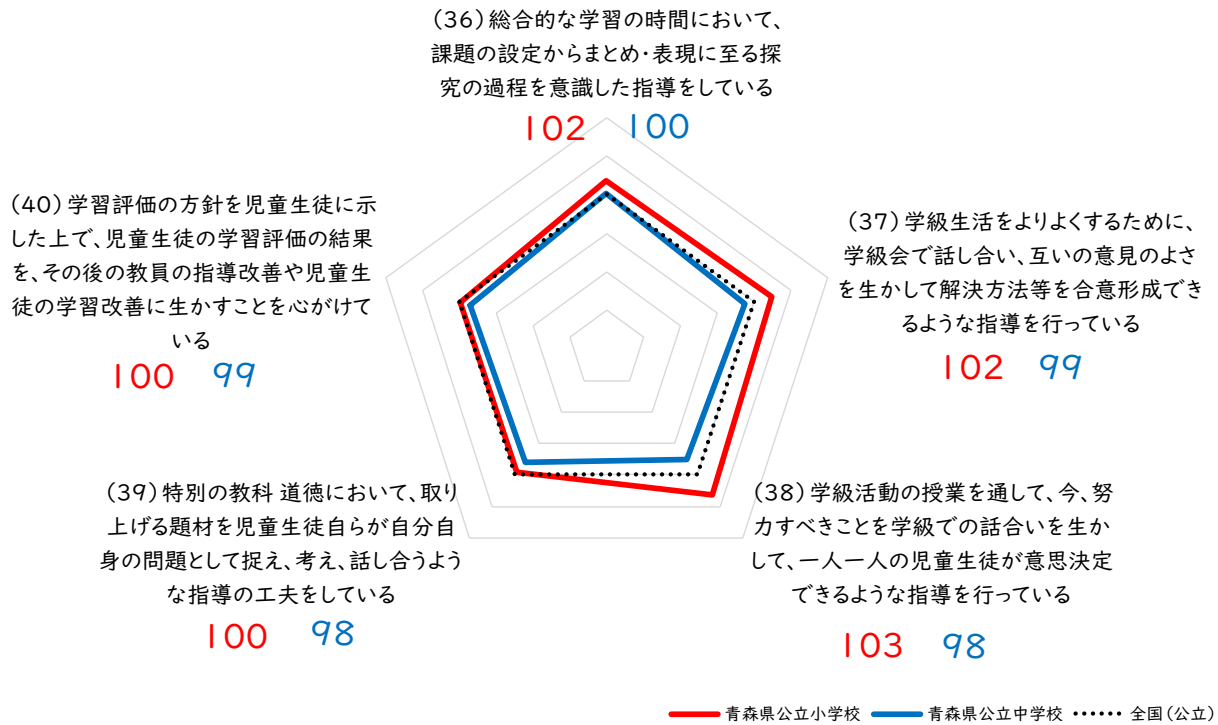
2 学校質問調査

①学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況



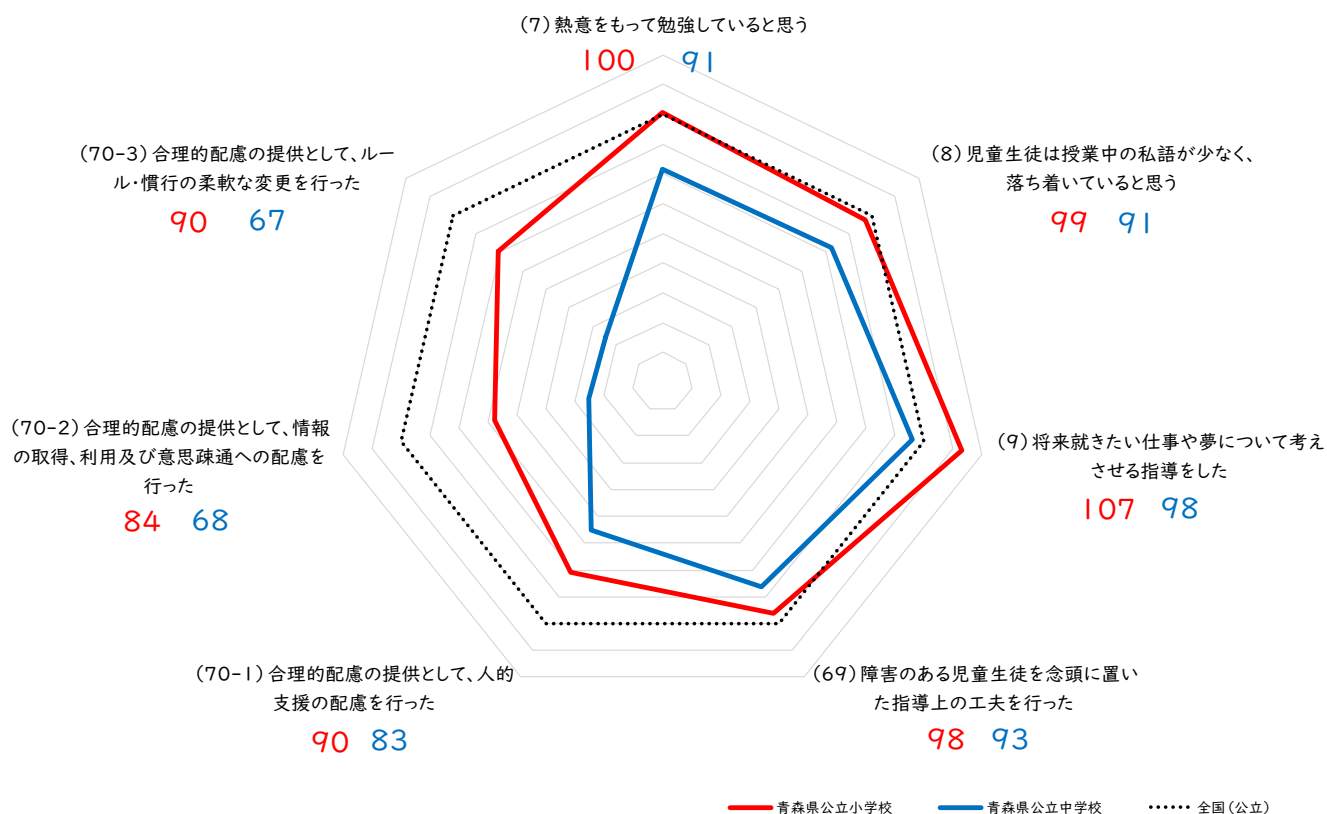
- ・(11)「教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて、月に数回以上話し合うことを行った」、(12)「教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを月に数回程度以上行った」について、小・中学校ともに、肯定的な回答が全国を下回っている。
- ・(20)「校内研修の計画の立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を設け、研修主事（研修主任）が担っている」について、小・中学校ともに、肯定的な回答が全国を大きく上回っている。

②総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法、学習評価



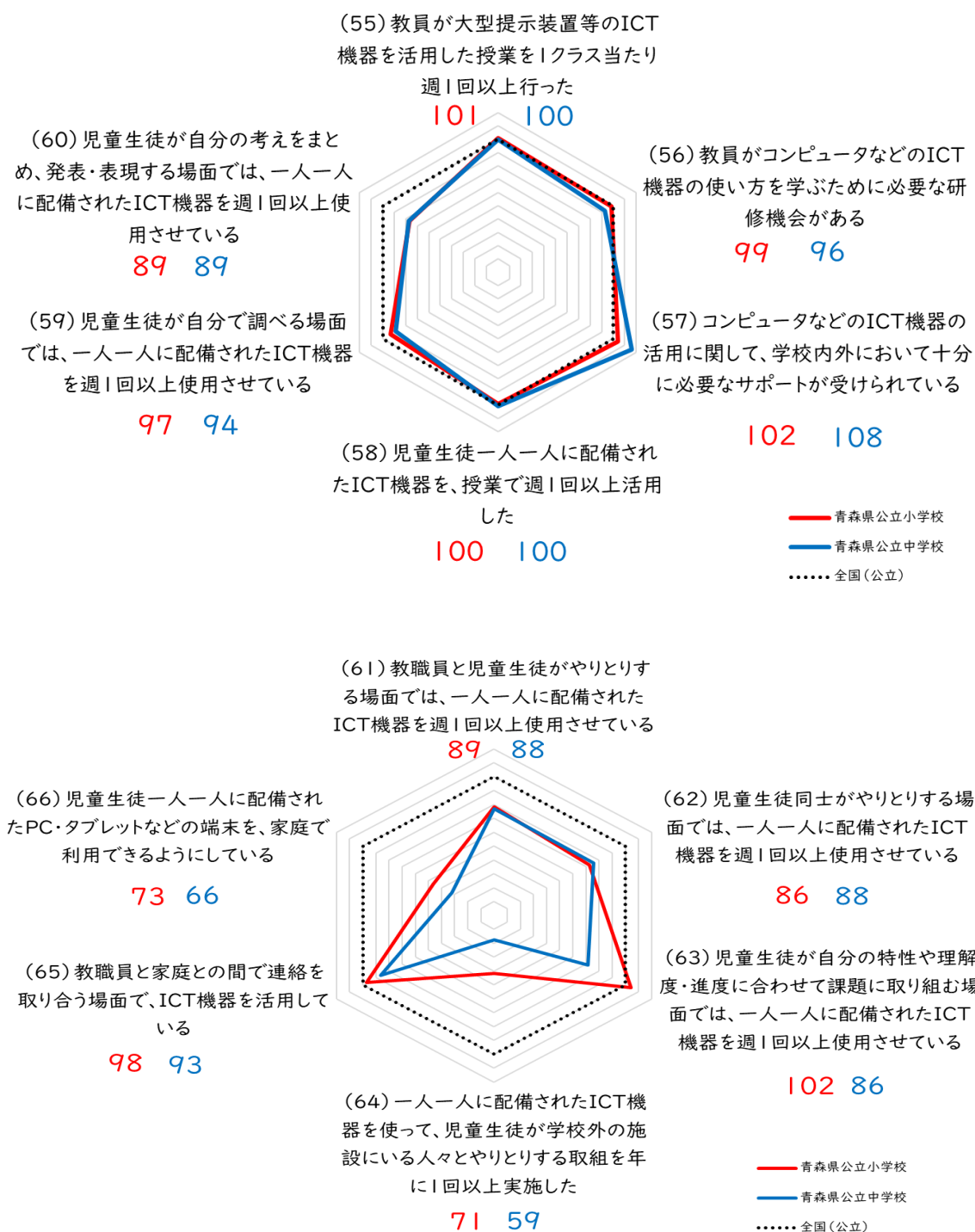
- ・小学校は、全5項目中の全てについて、肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。特に、(38)「学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている」について、肯定的な回答が最も上回っている。
- ・中学校は、全5項目中の全てについて、肯定的な回答が全国と同じ又は全国を下回っている。

③生徒指導等、特別な配慮が必要な児童生徒への指導



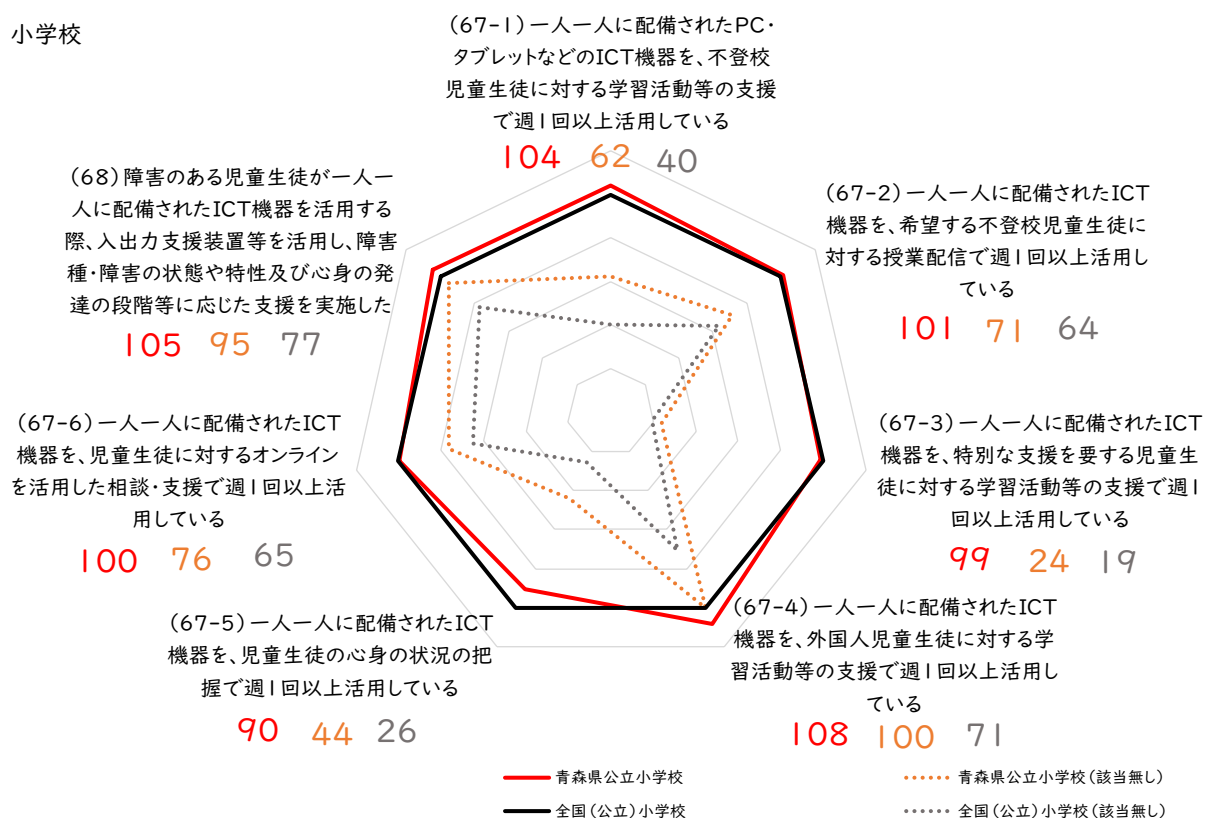
- ・小学校は、(7)「熱意をもって勉強していると思う」、(9)「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」について、肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
- ・全7項目中の5項目について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

④ICT を活用した学習状況

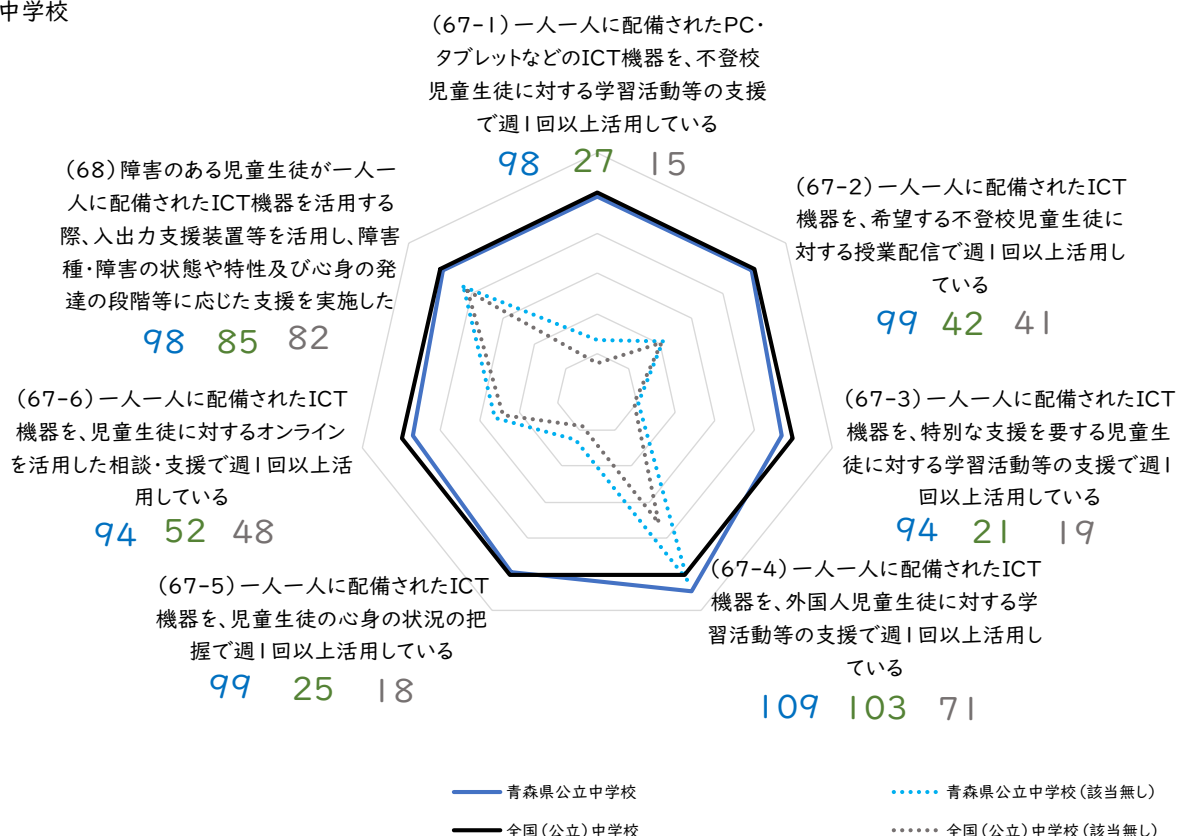


- ・(55) (58) の教員や児童生徒が ICT 機器を授業に使う頻度について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。
- ・(60) まとめ・発表・表現する場面での使用について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
- ・(61) (62) 教職員と児童生徒又は児童生徒同士でのやりとりする場面での使用について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

小学校



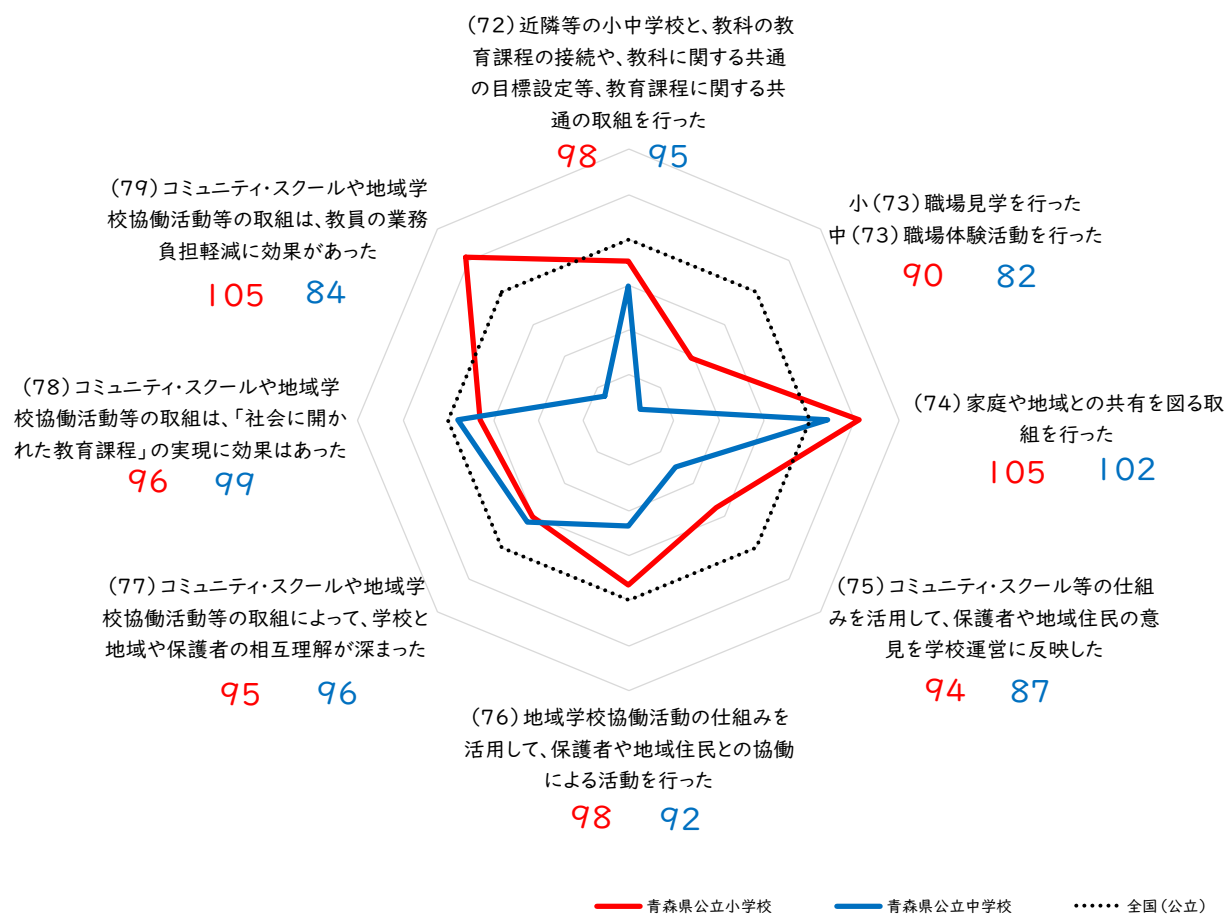
中学校



※上のグラフは各項目における「週1回以上活用している」及び「該当する児童生徒無し」の回答を合わせたものを、全国平均が100となるように作成したものである。また、点線は「該当する児童生徒無し」の回答のみを表している。

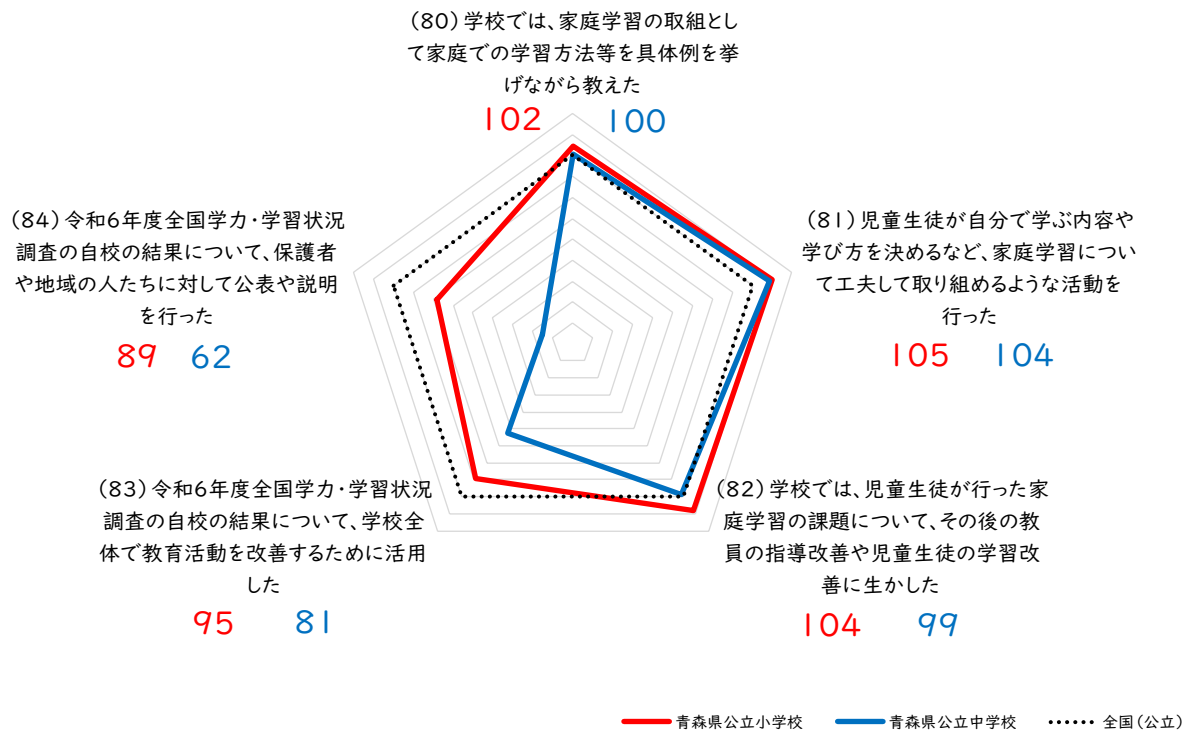
・(67-4)「一人一人に配備されたICT機器を、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援で週1回以上活用している」について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国と同じ又は全国を上回っている。

⑤小学校と中学校の連携、家庭や地域との連携等



- ・(74)「家庭や地域との共有を図る取組を行った」について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・(75)～(78)コミュニティ・スクールや地域学校協働活動について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。
- ・(79)「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果があった」について、小学校は肯定的な回答が全国を上回っている。

⑥家庭学習、全国学力・学習状況調査の結果の活用

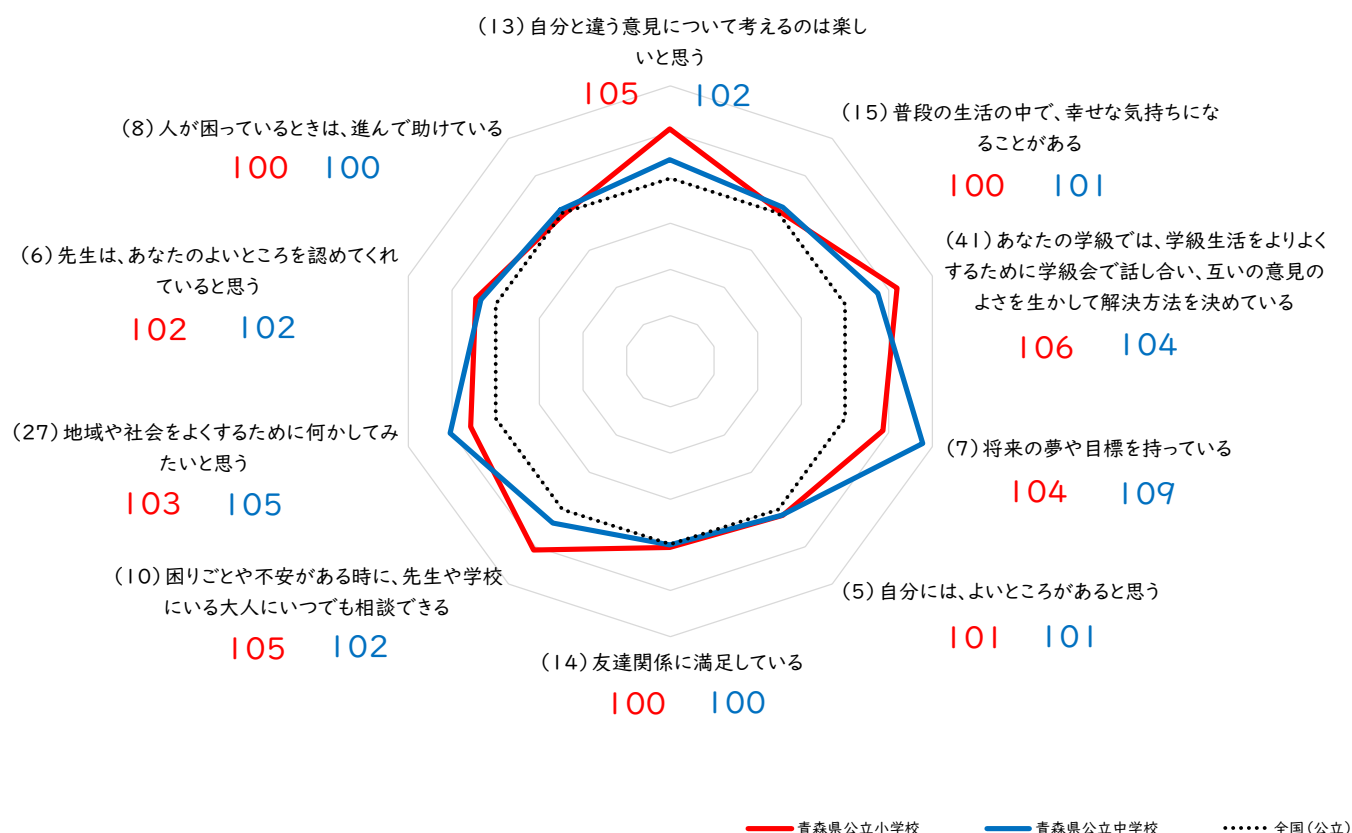


- ・(81)「児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、家庭学習について工夫して取り組めるような活動を行った」について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を上回っている。
- ・(83) (84) 全国学力・学習状況調査の結果の活用について、小・中学校ともに肯定的な回答が全国を下回っている。

○全国学力・学習状況調査の結果分析の活用が、各校における教育活動上の課題解決の一助になると考えられるため、各校の実情に応じた取組が期待される。

【参考資料】

こどものウェルビーイングの実現に関連すると考えられる項目（児童生徒質問調査から）



（注）『令和5年度全国学力・学習状況調査ウェルビーイングに関する分析報告書―学校という「場」のウェルビーイングの醸成に向けて―』（京都大学 内田由紀子氏・奥田麻依子氏）を参考にし、青森県教育委員会が独自に作成したチャート

グラフは児童生徒質問調査から、こどものウェルビーイングの実現に関連すると考えられる項目を取り出したものである。なお、このグラフはそれぞれの項目での肯定的な回答の割合を集計したものである。
・小・中学校ともに、全国と同じ又は上回っている。

○各校においては自校の状況を丁寧に捉え、こどもたちがウェルビーイングを実感できるように、学校・地域・保護者が協力してどのようなことに取り組めるのかなどを考察するきっかけとしてほしい。